資料2－2

【評価表】（案）

（ P1～P11　県立広島病院
P12～P19　県立安芸津病院 ）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目		実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化							
Ⅰ　医療提供体制の強化							
救急	○救急医療機能の強化 ○ドクターヘリ事業への支援	新型コロナの流行下で救急車の要請件数が増えたが、可能な限り応需したため、目標を上回った。	◎	◎	職員数が限られる中、応需率向上の取組がなされ、目標を2割近く上回ったことを評価した。可能な限り患者を受け入れる姿勢は県民の安心につながっている。 今後は医師の働き方改革を考慮しなければならないため、一部職員に過大な負担がないようにしてほしい。	◎7	＜評価に関する御意見＞ ■救急車の要請に関して、新しく救急医療専用システムを導入し、可能な限り応需することで受入件数は目標を大きく上回った。三次救急患者の受入率も、ほぼ維持された。ドクターカー及びドクターヘリも増加している。（木倉委員） ■「可能な限りの受入」の姿勢そのものが県民の安心、各消防や医療機関の安心につながっている。努力に頭が下がる。（高橋委員） ■応需率向上のために組織的な対応が具体的になされたこと、そして、その結果として救急車受入台数が目標を2割上回ったことを高く評価した。（谷田委員長） ■救急車の受入れは十分である。（中西委員） ■三次救急・重症患者受入応需率は、目標比及び前年比を下回っているが、三次救急患者数は増加しており、限られた人数の中で成し得る対応が図られたと言える。（平谷委員） ■救急受入台数の大幅増加を評価した。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■医師の働き方改革が施行される令和6年度に向けて、救急車も「可能な限りの受入」には限界がある。広島広域都市圏の救急相談体制との連携の下に、他の基幹病院との役割分担と連携を進めてほしい。（木倉委員） ■当直体制での対応はこれが限界との報告もあった。今後は医師の働き方改革との兼ね合いもある。デジタル化による効率化も踏まえて限界値を精査し、一部職員に過大な負担がないようにしてほしい。（高橋委員） ■救急車の応需ができなかった理由の記述がほしい。（和田委員）
脳心臓血管	○脳心臓血管医療機能の強化 ○広島県循環器病対策推進計画への関与	新型コロナ入院患者の対応にマンパワーを取られ、本来の業務を一部制限せざるを得なかった。また、一部の病棟において新型コロナのクラスターが発生するなどして新規入院を一部制限したため、目標を達成できない項目が増加した。	○		指標は7項目中6項目が目標未達であったが、新型コロナ対応で病床数が制限される中、前年度と同水準を維持しており、専門的な医療は十分に行われたものと評価できる。	◎4 ○3	＜評価に関する御意見＞ ■新型コロナ対応で病床が制限される中、前年度と同様の件数を維持しており、高く評価できる。（大毛副委員長） ■コロナ禍で入院制限もやむを得ない中、新規入院患者数はほぼ保たれた。重症の循環器疾患の手術件数は増加している。（木倉委員） ■コロナ禍の影響で制限があったのは、やむを得ないと考える。可能な範囲で、どれだけ達成したかを見れば良いと考える。（高橋委員） ■クラスター発生による制約があったが、開業医へのPR、院内連携、救急受入などが積極的に行われ、高度で専門的な医療は十分に展開されたものと高く評価した。（谷田委員長） ■目標達成状況を踏まえ評価を行ったが、クラスター対応等、コロナ禍でのスタッフの対応に敬意を表したい。（平谷委員） ■ほとんどの指標で目標値未達成となっているが、新型コロナの影響であり、やむを得ない。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■脳心臓血管医療センターの高度な機能をさらに活かすために、地域の一般病院や開業医との地域医療連携を進めてほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化								
Ⅰ　医療提供体制の強化								
	成育	○成育医療機能の強化	新型コロナ陽性妊婦を県内で最も多く引き受け、他の医療機関へその経験を伝達することで、総合周産期母子医療センターとしての役割を果たした。	◎	◎	緊急母体搬送受入、ハイリスク分娩及びハイリスク妊娠管理を積極的に担ったことを評価した。また、新型コロナ陽性妊婦の受入れを中心となって行ったことに加え、県内の産婦人科医師に知見を伝えていることから、県立病院としての役割は十分果たしている。	◎7	＜評価に関する御意見＞ ■新型コロナ陽性妊婦の経験を他病院にも伝えており、総合周産期医療センターの機能が発揮されている。出生数が減少する中でも、緊急母体搬送受入件数、低体重新生児入院数及び生殖医療科採卵件数は増加し、県立病院の専門的役割は果たせている。（木倉委員） ■新型コロナ陽性妊婦の受入れに関する知見を、県内の産婦人科医師に伝えた点をプラスに評価した。（高橋委員） ■コロナ禍にあって、緊急母体搬送受入、ハイリスク分娩及びハイリスク妊娠管理を積極的に担当した点、さらには新型コロナ陽性妊婦の分娩を県の中心となって行った点を高く評価した。（谷田委員長） ■コロナ禍における対応を十分に果たしている。今後、ポストコロナの目標値設定においては、特に新生児受入数等について出生数予測なども考慮されてはどうか。（平谷委員） ■公立病院としての役割を十分果たしている。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■出生数の減少が続く中で、県全体、特に広島都市圏の成育医療センター機能の集約は不可欠。新病院計画推進の間も、広島都市圏の基幹病院の間での役割分担と連携を進めてほしい。（木倉委員）
	がん	○がん医療機能の強化	手術支援ロボットの本格稼働やがんゲノム医療拠点病院の指定を受け、がん医療に関する機能が進展し、新規がん登録患者数も増加した。	◎	◎	がん登録件数、悪性腫瘍手術件数は前年度を大きく上回った。また、先進的ながん医療の実施と並行して、よろず相談所やがんサロンが実施され、がん医療の普及啓発も行われたことを評価した。 がんゲノム検査の件数は伸びたが、未知の分野であることから、カウンセラー一体制、治療の成果及び患者や家族の受け止めなど、数値に表れない取組も徹底してほしい。	◎6 ○1	＜評価に関する御意見＞ ■国の「がんゲノム医療拠点病院」指定を受け、重点指標のがんゲノム検査件数は大きく伸び、手術件数、特にダヴィンチ導入による低侵襲手術が伸びた。（木倉委員） ■がんゲノム検査は数を増やすことに力点を置いた目標で、方針は理解できる。未知の分野であり、カウンセラー一体制、治療の成果及び患者や家族の受け止めなど、数値に見えない自己評価を徹底してほしい。（高橋委員） ■先進的ながん医療が行われるのと並行して、よろず相談所やがんサロンが実施され、がん医療の普及啓発も行われた。さらには、院内外を対象にがん医療に関わる人材育成も行われた。これらは県立病院の存在意義に合致するものであるとして高く評価した。（谷田委員長） ■がん登録件数、悪性腫瘍手術件数は前年度を大きく上回っている。入院患者数の各指標の目標未達は、外来治療への移行によるものであることから、考慮しなかった。（平谷委員） ■ほぼ目標通りもしくは少し及ばなかったため、「○」とした。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■ダヴィンチの導入、リニアックの更新などで機能は充実している。今後は、広島市内基幹病院によるHIPRACの共同利用の拡大を図るとともに、遺伝子解析診断に基づく最適治療についても市内基幹病院間の役割分担と連携を進めて、地域のがん治療全体の強化に貢献してほしい。（木倉委員） ■がんゲノムでは、国立がん研究センターが患者や市民と意見交換するSNSを設け、他医療機関では啓発の講演会を開催したと聞く。社会に正しい知識が広まることが重要な分野であると思う。（高橋委員） ■消化器がん以外の治療実績の目標を設定してほしい。（和田委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化								
Ⅰ　医療提供体制の強化								
	その他	○高度急性期病院としての医療の質の維持向上	全身麻酔件数、DPC期間Ⅱのパス適用率などの目標を達成した。	○	○	4項目中3項目の目標が達成された。 中でも全身麻酔件数は前年度比及び目標値を上回る結果だったが、DPC/PDPS入院期間Ⅰでの退院例のパス適用率については、目標未達で前年度比も減少している。	◎2 ○5	＜評価に関する御意見＞ ■全身麻酔件数は前年度比283件増で、目標値を上回る結果であった。（大毛副委員長） ■取組項目はおおむね目標を達成した。（木倉委員） ■おおむね目標を達成している中で、自己評価を「○」としたのであれば、課題を分かりやすく記載した方が良い。（高橋委員） ■DPC/PDPS入院期間Ⅰでの退院例のパス適用率について、目標未達で前年度比でも減少していることを評価の主な根拠とした。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■昨年も述べたが、DPC/PDPS入院期間Ⅰ・Ⅱでの退院例のパス適用率は、広島病院が高度急性期病院としての役割を適切に果たしているか、DPCデータ等から総合的に評価しようとするものと思われるが、地域完結型医療をリードする県立病院として、「Ⅳ 地域医療連携の強化」と合わせた項目として評価する方が分かりやすいのではないか。（木倉委員） ■単純な他者との比較にとどまらず、指標の持つ意味や自院が行おうとしている取組との関係について示していただきたい。（谷田委員長）
Ⅱ　医療の安全と質の向上		○医療安全の確保	様々な感染対策を行ったが、アウトブレイク件数は増加した。一方、感染対策向上加算取得施設との相互評価など、他の医療機関との連携は実施できた。	○	○	転倒・転落発生率が低く維持されており、地域の医療安全研修への協力も継続された。一方、新型コロナの院内感染発生件数が増加しており、要因によっては再度対策を講じる必要がある。原因を調べ、再発防止を徹底してほしい。	○5 △2	＜評価に関する御意見＞ ■アクシデント件数は横ばい、転倒・転落発生率も低く維持されている。コロナ禍でも、Webや派遣による地域の医療安全研修への協力を継続し、県立病院の役割を果たしている。（木倉委員） ■院内感染の発生件数が増加したが、その原因によって評価が変わる。受入数に比例して防ぎようがないのか、あるいは、例えば緩みや慣れ、職員の疲労などがあるのか。要因によっては再度対策が必要ではないか。（高橋委員） ■好ましくない事態の発生について、その発生機序についての言及が十分でないことから低い評価とした。（谷田委員長） ■院内クラスターを評価根拠としたが、受入れを続けられた。（平谷委員） ■新型コロナのアウトブレイクが大幅に増加したことなどから「△」とした。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■新型コロナ対策の経験を踏まえて、平時における職員の育成と緊急時の集約も含めて、県全体の基幹病院として、役割分担と機能連携をリードしてほしい。（木倉委員） ■アウトブレイクの原因を調べ、再発防止を徹底してほしい。（和田委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化								
	Ⅱ　医療の安全と質の向上	○医療の質の向上	一部チーム医療について目標未達成だが、対前年度比では上昇した。	○	○	チーム医療の実績となる各種算定を取得しているなど、一部を除いて前年度から横ばいとなった。	◎1 ○6	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍にあっても、チーム医療の取組がほぼ前年度の実績と横ばいであった。しかし、他の医療機関と比較できる指標が少ない。（木倉委員） ■チーム医療、看護の質のいずれの指標も、コロナ禍にあって、大きく伸びている。（平谷委員） ■チーム医療の実績となる各種算定を取得している。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■取組方針では、NDBなどデータの比較活用による質の向上を挙げている。自病院の実績だけでなく、可能な限り多くの項目で比較した指標を示してほしい。（木倉委員） ■現在の指標はプロセス指標とアウトカム指標が判然としないため、内容を検討してほしい。（谷田委員長）
	Ⅲ　危機管理対応力の強化	○新型コロナウイルス感染症への対応	昨年度と同様に重点入院医療機関としての役割を果たした。	◎	◎	新型コロナの流行状況に応じて適切に患者の受入れを行ったことで、県民の安全を守る役割が果たされ、県の対策をけん引できたと評価できる。	◎7	＜評価に関する御意見＞ ■県内最大数の新型コロナ病床を確保し、中等症・重症患者を積極的に受け入れるとともに、救急患者の受入れを制限せず、県立病院としての役割を果たした。（木倉委員） ■引き続きの努力に感謝したい。（高橋委員） ■量的にも質的にも県の対策をけん引したこと、さらに、そのために全組織的な行動がとられたことを高く評価した。（谷田委員長） ■流行状況に応じ、適切に受入れが行われている。新型コロナ患者への対応はもとより、陽性妊婦をはじめ、新型コロナに罹患した他疾患の患者等も積極的に受け入れられ、県民の安全を守る役割が果たされている。（平谷委員） ■県立病院として、新型コロナ対応を十分果たしていると考える。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■陽性妊婦の受入れを最大限行いながら、対応しきれないものについて県内の産科医療機関にノウハウを伝えて連携を図ったように、新型コロナへの対応と一般医療との両立のノウハウを、次期地域医療計画における新型感染症への対応にしっかり活かしてほしい。（木倉委員） ■余力があるなら、新型コロナ後を見据え、例えば患者受入れのノウハウ、後遺症の知見など、次の新たな感染症に備えた分析と経験値の蓄積をしてほしい。（高橋委員） ■将来のため、職員の経験を記録に残すことを検討してほしい。（谷田委員長）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目		実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化							
Ⅲ　危機管理対応力の強化	○災害対策の強化	新型コロナ下においても、訓練や研修事業を計画どおり実施した。	◎	◎	コロナ禍においてもDMATの機能維持などの研修・訓練に努めており、多重災害への備えを怠らないという点で高く評価した。 引き続き、研修・訓練を実施するとともに、浸水被害を想定した初動対応などを再確認してほしい。	◎7	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍にあっても、県全体の基幹災害拠点病院として、研修・訓練をしっかり実施するとともにDMATの機能維持などの研修に努めている。（木倉委員） ■新型コロナへの対応を実施しながらの災害訓練の実施は、多重災害への備えを怠らないという点で、県立病院の設置目的を具現化しているものと高く評価した。（谷田委員長） ■多くの訓練と研修を積み重ねており、また、重点指標をクリアできた。（平谷委員） ■災害対応訓練参加者が目標を大幅に超えている。訓練参加の医療機関も増えた。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■自然災害の多い広島県の基幹災害拠点病院として、院内の体制維持とともに、県全体の人材育成に引き続き努めてほしい。（木倉委員） ■災害時には浸水被害が想定される。全国的に思わぬ豪雨や河川氾濫が相次いでいるので、初動対応などを再確認してほしい。（高橋委員） ■引き続き訓練などを実施してほしい。（谷田委員長） ■令和4年度の取組内容と数値根拠が多くの点で変更されており、比較が難しかった。なるべく通年比較がしやすいようにしてほしい。また、基準などが変わった場合にはその補足説明を付けてもらいたい。（平谷委員）
Ⅳ　地域連携の強化	○地域医療連携	一部対面による連携活動を再開し、顔の見える連携を復活させた。	○		医療機関への訪問が減少しているが、新型コロナ対応のため、やむを得ないと考える。代替策として、地域住民向けの講習会・講演会を行っており、紹介率・逆紹介率の上昇や連携先との関係強化を図る取組についても高く評価できる。	◎3 ○4	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍にあっても、患者紹介率・逆紹介率は上昇し、6大がん地域連携パスも伸びており、地域連携に努めている。（木倉委員） ■一つ一つの連携先との関係を強化しようとしている取組を高く評価した。結果として逆紹介率の高率の維持があると理解した。（谷田委員長） ■新型コロナ感染状況を踏まえつつ研修・訪問なども実施されており、重点指標はいずれも達成できている。（平谷委員） ■新型コロナ対応の中、医療機関への訪問が減少するのはやむを得ない。代替策として地域住民向けの講習会、講演会などを増加させた。紹介率・逆紹介率も前年を超えている。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■広島都市圏の地域連携については、広島病院単独での地域医療機関・医師会との連携だけでなく、市内基幹病院相互の役割分担も図りながら、地域医療構想・地域包括ケアを推進してほしい。県全体の地域連携をサポートする病院としては、新型コロナの経験も踏まえ、KBネットだけでなく、県全域のHMネット普及をリードし、診療情報の共有を進めてほしい。また、無医地区数全国2位の広島県の県立病院として、地域完結医療・地域包括ケアの研修について、安芸津病院と一体となった取組を推進してほしい。（木倉委員） ■看護師及び薬剤師等のメディカルスタッフの地域連携の実態はどうなっているのか。（和田委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（2）人材育成機能の維持								
	Ⅴ　医師の育成・確保	○医師の確保・育成	初期臨床研修医はフルマッチ継続、その他の活動もほぼ順調であった。	◎	◎	初期臨床研修はフルマッチで、重点指標の専門医研修も目標を達成した。一方、新病院計画に向けて、総合診療医育成の方針や意欲が見えるようなアピール方法を探ってほしい。	◎5 ○2	＜評価に関する御意見＞ ■初期臨床研修医の受入、専門医研修ともに実績を上げている。（木倉委員） ■総合診療専門研修プログラムの件は、まず指導医の養成が課題との説明を受けた。大型投資である新病院の設立趣旨の柱の一つであり、県民が納得できるような準備が必須だ。対外的にも、総合医育成の方針、意欲が見えるようなアピール方法を探ってほしい。（高橋委員） ■多くのベテラン医師たちが行っている自己研鑽についても触れていただきたい。（谷田委員長） ■初期臨床研修はフルマッチであり、重点指標も達成している。（平谷委員） ■フルマッチを評価した。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■初期研修医の県内定着率が低下している。新病院計画に向けて、今からアピールを強化してほしい。無医地区を多くかかえる広島県の人材育成の拠点病院として、総合診療専門研修プログラムへの登録者を増やすようさらに努力してほしい。（木倉委員）
	Ⅵ　看護師等の育成・確保	○看護師等の育成・確保	離職率についての目標は達成できたが、予想を上回る退職者がでた。	◎	◎	特定行為研修修了看護師やメディカルスタッフ認定資格取得者が増加したこと及び退職率が低いことを評価した。 他機関が断った学生実習を受入れたのは、日頃のスキルが高いからこそ実現できたと考えられる。	◎5 ○2	＜評価に関する御意見＞ ■特定行為研修終了看護師、メディカルスタッフ部門の認定資格取得者ともに増加している。（木倉委員） ■コロナ禍で他機関が断った学生実習の受入れは、日頃のスキルが高いからこそ実現できたことだと考える。（高橋委員） ■県立病院の看護師の働き甲斐を向上させる「何か」を示してほしい。（谷田委員長） ■目標は達成しているので評価は「◎」とした。（平谷委員） ■退職率の低さを評価した。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■働き方改革のタスクシフトのためには、認定・専門・特定行為終了看護師の養成をさらに進めてほしい。（木倉委員） ■離職者が前年度比で上昇した原因分析の上、共有いただきたい。（平谷委員）
	Ⅶ　県内医療水準向上への貢献	○地域医療従事者等への研修 ○医療人材の派遣	コロナ禍においても、学生の実習を受入れ、人材育成に貢献した。	◎	◎	学生実習の受入実績及び医師・看護師等の講師派遣回数が目標を大きく上回り、県立病院として県内医療水準の向上に積極的に取り組んだことを評価した。	◎6 ○1	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍にあっても、看護学生の実習を原則受入れたので大きく伸びている。講師派遣回数も大きく伸びて、県立病院として県内医療水準向上に貢献している。（木倉委員） ■県内の医療水準の向上に向けて積極的に取り組んでいる。（谷田委員長） ■目標を大きく上回る実習受入と講師派遣数を評価した。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■新たな高度医療・人材育成拠点構想を展望して、安芸津病院や県内拠点病院への支援をさらに進めてほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（3）患者満足度の向上								
	Ⅷ　患者満足度の向上	○患者満足度の向上	患者満足度アンケートにおいては、「外来の待ち時間の満足度」が目標を達成することができなかったが、前年度から向上した。	○	○	患者アンケートの満足度はわずかに未達であったが、97.4%と高く維持されている。これは、職員の患者への思いが評価されたものと理解している。 外来待ち時間の短縮については、午後外来やオンライン診療等の導入も含めて工夫を進めてほしい。	◎2 ○5	＜評価に関する御意見＞ ■アンケートを毎月繰り返し実施し、全体として高い満足度を維持している。（木倉委員） ■患者満足度97.4%は職員の患者への思いに対する評価として理解している。（谷田委員長） ■患者アンケートの満足度も非常に高いところで目標がわずかに未達であり、その他改善も進んでいる。受診してみると、他院と比較しても不満が生じる場面がほとんどない。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■要望の1/3を占める外来待ち時間については、午後外来の導入やオンライン診療等も含め、工夫を進めてほしい。毎年みられる採血の待ち時間の改善要望については、さらなる人材配置の工夫で改善してほしい。（木倉委員） ■待ち時間に関わり、マイナンバーカードによる保険証でのトラブルが懸念される。（高橋委員） ■県内医療機関の満足度調査についても検討してほしい。（谷田委員長） ■満足度調査をより頻繁に実施できないか。（和田委員）
	Ⅸ　業務改善	○TQMサークル活動 ○5S活動 ○院外への普及活動	新型コロナ下ではあったが、病院全体の改善活動については、予定どおりに実施し、一定の成果をあげることができた。	○	◎	コロナ禍にあってもTQMサークル活動や5S活動の普及に努め、目標値を上回る成果を挙げている。 5S活動及びTQM活動は働き方改革の推進や医療の質向上につながるため、今後も継続してほしい。	◎7	＜評価に関する御意見＞ ■目標値を大きく上回る成果を挙げている。（大毛副委員長） ■コロナ禍にあっても、院内だけでなく地域へのTQMサークル活動や5S活動の普及に努めている。（木倉委員） ■TQMサークルによる改善は、本来の業務として実施するような意義ある内容ではないか。経費削減に直結しそうなテーマの提案を集中的に募っても良いのではないか。（高橋委員） ■コロナ禍にあって、十分な取組と考えた。（平谷委員） ■5S活動、TQM活動は働き方改革や医療の質向上に貢献する。継続してほしい。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■広島病院主催で令和5年11月に予定されている第24回フォーラム「医療の改善活動全国大会 in 広島」をばねとして、さらに改善活動の人材育成や県内医療機関の改善活動推進協議会の活動を拡大してほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（3）患者満足度の向上								
	Ⅹ　広報の充実	○広報の充実	多くの報道機関からの取材の申し込みがあり、すべて対応した。	○	○	取材協力依頼は、目標以上に積極的な対応をしている。 一方、自ら発信するプレスリリースは十分とは評価できないため、新型コロナの感染動向等、社会で共有すべき課題や医療機関として提言すべき事象があれば、積極的に発信してほしい。	○6 △1	＜評価に関する御意見＞ ■新型コロナに対する積極的対応は、県立病院のもつ総合的な対応力を県民にアピールするものであり、目標以上に積極的に対応している。広報誌「もみじ」は、広島病院の機能やスタッフ紹介も読みやすく工夫されている。（木倉委員） ■積極的な広報活動が十分であったとは評価できなかった。（谷田委員長） ■取材応対も必要だが、自ら発信するプレスリリースを増加させること。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■県全体をカバーする県立病院として、広島市内の基幹病院との協力や県内医療機関へのサポートの状況についてしっかり広報して県民の安心感を高めてほしい。（木倉委員） ■新型コロナは感染動向、死者数やその要因をはじめ、実態が県民から見えにくくなった。社会で共有すべき課題、医療機関として提言すべき事象があれば、積極的に広報してほしい。（高橋委員） ■コロナ禍での取組をはじめ、県民の安心につながる広島病院の実績について、取材依頼を受けるだけでなく、新病院への移行もにらみ、積極発信（ブランディング）も検討されてはどうか。（平谷委員）
（4）経営基盤の強化								
	ⅩⅠ 経営力の強化	○情報共有とPDCA ○病棟・病床運営の弾力的運営 ○DPC特定病院群の維持	新規入院患者数は到達できなかったが、延べ入院患者数は増加した。令和4年度改定において引き続き特定病院群を維持できた。	○		新規入院患者数は目標未達であったが、コロナ禍にあっても回復基調にある。そのほかの指標はいずれも目標を達成するか、前年の数値を上回っており、事業目的に合致した組織的な行動がとられたものと高く評価した。	◎4 ○3	＜評価に関する御意見＞ ■重点指標の新規入院患者も、コロナ禍にあっても回復してきている。（木倉委員） ■コロナ禍がまだ流動的なので、臨機応変の切替えが重荷だと想像する。（高橋委員） ■事業目的に合致した組織的な行動はとられたものと高く評価した。（谷田委員長） ■新規入院患者数は、目標未達ではあるが、前年度よりも目標に近づいていること等から、実質的には問題と捉えなかった。そのほかの指標はいずれも目標を達成ないし、前年比を上回っている。（平谷委員） ■入院患者数が昨年比で増加し、かつ稼働率もアップしている。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■取組方針には、「医療需要の把握、医療情報による経営分析」や「必要に応じた病床規模や診療科構成の見直し」とある。次期経営計画での的確な目標設定のためには、市内基幹病院や県内全体の患者動向及び病床稼働率も含めた分析を踏まえる必要がある。本庁と病院で分析スタッフを増やして、高度医療・人材育成拠点構想を目標に、速やかに取組を進めてほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（4）経営基盤の強化								
	ⅩⅡ 増収対策	○医業収益の増加策 ○診療報酬請求の改善	令和4年度の診療報酬改定や新型コロナ患者を受入れたことにより入院単価が上昇し、また延べ入院患者数も増加したため増収となった。	◎	◎	指標はいずれも目標を達成しており、診療報酬改定に柔軟に対応し、新型コロナ患者の受入れを病院の特性として収益に結びつけた成果が見える。 入院期間の短縮、レセプト査定の減少及び政策事業と医療事業を並行して、十分な収益を獲得したことを高く評価した。	◎6 ○1	＜評価に関する御意見＞ ■レセプト査定額は1割減少しており、的確な診療報酬請求の努力が成果をあげている。一方で未収金は増大しており、さらなる努力が必要である。（木倉委員） ■診療報酬改定に柔軟に対応し、新型コロナ患者の受入れを病院の特性として収益に結びつけた成果が見える。（高橋委員） ■新型コロナに関する政策事業を遂行するのと同時に、通常の政策事業と医療事業を並行すべく活動がなされたことで、十分な収益を獲得できたものと高く評価した。（谷田委員長） ■指標はいずれも達成していることを評価の根拠とした。（平谷委員） ■入院期間を短縮する努力、レセプト査定の減少を評価した。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■入院患者の減少、在院日数の短縮の流れの中で、広島都市圏の基幹病院間の役割分担と集中を進めなければ、大きな収支改善は見込めない。新病院計画を踏まえて、地域医療構想の下で、具体的な取組を早急に進める必要がある。（木倉委員） ■未収金対策において、より一層の対応が必要と考える。（和田委員）
	ⅩⅢ 費用合理化対策	○適正な材料・薬品・備品の購入 ○経費の見直し	抗がん剤の一部を積極的にバイオシミラーへ切り替えるなどの取組を進め、医業収益対材料費率は下降した。 電気代は高騰の影響を受け増加した。	○	○	価格高騰による光熱水費の増加はやむを得ない。一方、電気の使用量は低下していることから、節約に取り組む意識が浸透してきていると思われる。材料費増は留意すべき点であるものの、必要な医療のためには惜しまず使ってもらいたい。	○6 △1	＜評価に関する御意見＞ ■後発医薬品・バイオシミラー使用については、効果額が目標に届かなかったが、大きく伸びている。後発品の数量割合はやや低下した。共同購入による削減額は大きく伸びている。電気の使用量は低下したが、価格高騰による金額の大幅な増加はやむを得ない。（木倉委員） ■挙げられている課題及び取組が目的に合致しているか、また、費用を収益につなげていくための施策が見えてこない。（谷田委員長） ■電気・水道など、節約に取り組む意識が浸透していると思われる。材料費増は、留意すべき点であるものの、必要な医療のためには惜しまず使ってもらいたい。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■内閣府の「経済財政運営と改革の基本方針（骨太方針）」でも、厚生労働省の「医療費適正化基本方針」でもバイオシミラーの使用拡大が盛り込まれた。特にバイオシミラーは、基幹病院での使用促進が取組の中心となる。数量目標や効果額は、従来からの後発品とは別に数値を示して取組が分かるようにしてほしい。（木倉委員） ■政策経費に対し、繰入が過少である場合は医業収益等から補填しなければならない。収益確保の前提として、政策経費がどの程度かかっているのか把握するべきだ。このため、政策経費と保険診療経費を区分するための工夫をしていただきたい。（谷田委員長） ■光熱費の高騰に対してどのような手を打っているか。（和田委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（5）目標指標								
	決算の状況		前年度と同様に新型コロナに係る補助金を受け入れたが、本業の医業収支を改善し、公的病院の役割を果たした上で経常損益の黒字も達成した。	◎	◎	医業収支ベースではほとんど昨年と同じ水準であったが、新型コロナへの対応と通常医療を両立させる工夫を行い、経常収支均衡が維持されたことを高く評価した。また、新型コロナ患者を受入れる際に、産婦人科などの強みを生かすことができた。 引き続き残業の縮減や材料費率の低減など経費の見直しを進めてほしい。	◎6 〇1	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍での変動はあるが、地域全体として、人口減少、外来・入院患者減少及び医療の高度化による材料費の上昇の動向は変わらない。新型コロナへの対応と通常医療を両立させる工夫を行ったことを踏まえ、新型コロナに係る補助金がなくても経常収支を黒字にできるスリムな経営に努めるべきである。（木倉委員） ■新型コロナ患者の受入れで産婦人科などの強みを活かした点、平常時に移行する過渡期の体制を適切にコントロールすることで、新規入院患者増など収益確保と新型コロナ補助金の獲得をバランス良く判断できた。（高橋委員） ■経常収支均衡が維持された点を高く評価した。（谷田委員長） ■医業収支ベースではほとんど昨年と同じ水準であった。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■人口減少の流れは変わらず、次期経営計画では、診療機能や病床の役割分担と集中が必要。コロナ禍でこの見直しの必要性は一層明らかとなった。新病院計画を踏まえて、広島都市圏の基幹病院の役割分担と連携を具体化しながら、次期経営計画の目標設定を行ってほしい。（木倉委員） ■働き方改革の残業規制が迫っており、収益のどの分野にどの程度影響があるのかシミュレーションが求められる。（高橋委員） ■引き続き残業の縮減や材料費率の低減など経費の見直しを進めてほしい。（和田委員）
	目標指標の達成状況		各取組項目で濃淡はあるが、全61項目のうち過半数の目標は達成した。	－	－	コロナ禍や人口減少、高齢化など、構造的問題で未達成の項目も多いと思われる。 当面の改善努力は続けながら、次期経営計画では、県全体をリードすべき県立病院として、診療科、病床及び人員配置などの根本的な見直しが必要である。	－	＜評価に関する御意見＞ ■全体61項目のうち、半数以上は目標を達成したが、未達成項目は、平成30年度の5項目、令和元年度の11項目、令和2年度の18項目、令和3年度の21項目から、令和4年度は25項目と増加している。（木倉委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■コロナ禍の影響もあるが、人口減少と高齢化の構造的問題で未達成のものも多いと思われる。当面の改善努力は続けながらも、次期経営計画では、新病院計画を踏まえ、県全体をリードすべき県立病院として地域医療構想の方向性を先取りする形で診療科、病床及び人員配置などの根本的な見直しが必要である。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（広島病院）】

取組方針／取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）
総合評価			◎	新型コロナで病床が制限される中、前年を上回る通常医療が実施できており、県立病院の存在意義に沿った経営がなされたものと高く評価した。新型コロナ患者の受入れを続けつつ、通常医療を平常の水準に戻す努力をしてきた積み上げが経常収支の黒字として表れている。

委員評価	委員意見
◎7	＜評価に関する御意見＞ ■新型コロナで大幅に病床が削られる中で、前年を上回る通常診療を実施したことは高く評価されるべきと考える。（大毛副委員長） ■コロナ禍の大きな影響は新型コロナに係る補助金で緩和されたが、通常医療の継続に努力し、対前年度で新規入院患者が増加し収益力は改善した。しかし、基本的な収支構造は大きく変わらず、人口減少と高齢化による患者減少や医療材料の高額化等の傾向は大きくなっている。県全体も広島都市圏も、さらなる人口減少と高齢化は避けられないので、従来どおりの病院経営での状況改善は難しく、新病院計画を踏まえ、強みとする診療機能への重点化が必要である。（木倉委員） ■さまざまな取組項目で新型コロナ患者の受入れを続けつつ、通常医療を平常に戻す努力をしてきた積み上げが、黒字として現れている。（高橋委員） ■県立病院の存在意義に沿った経営がなされたものと高く評価した。（谷田委員長） ■おおむね網羅的な取組がなされていると考えます。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■平成28年３月からの地域医療構想では、「広島市においては高度な医療を提供する病院が近距離に立地しており、４基幹病院においては、高度医療の充実や人材の確保・育成に向け、一定の集約や役割分担を図る必要があります。」と記載されている。令和6年度に向けて、新たな医療計画、医療費適正化計画等の策定作業が開始する。長期的な人口構造の変化は変わらず、少子化はコロナ禍で加速化している。また、医師の働き方改革も2024年４月に迫っている。このような背景の中で、県立病院については、昨年高度医療・人材育成拠点として整備していく基本構想が打ち出され、今年９月には基本計画が示される。新病院計画を進める間においても、県の直営の拠点病院として、率先して地域医療構想をリードしていくことが求められ、中長期的に広島都市圏の基幹病院との間で県立病院が担うべき役割を明確にして、強みを伸ばすべき分野に機能を集中してほしい。新たな経営計画の期間中でも、取組の方針・項目・指標について見直しながら診療機能の見直しを進めてほしい。（木倉委員） ■働き方改革の関連で、令和5年から目標指標に加わる時間外勤務関連の令和4年実績に触れていれば良かった。取組総括で課題と捉えられ、これまでの説明でも適切な準備が進められていると理解しているが、救急などの目標設定とも関わるのでよく点検してほしい。（高橋委員）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目		実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化							
Ⅰ 医療提供体制の強化	○専門医療の充実 ○政策医療の提供	骨粗鬆症外来等の専門外来は全体の外来患者減少の中でも増加したが、手術及び内視鏡件数は目標を下回り、入院患者数の増加には結び付かなかった。	△	○	新型コロナの影響を受けながら、救急を断らない方針により受入数が前年比100件増となった。さらに、専門外来をアピールすることで患者数を増やし、病院機能を維持したことを評価した。 また、手術件数及び内視鏡検査数は目標未達であったが、いずれも前年度を超えている。 今後も、県全体の地域包括ケアのモデルとしてノウハウを広め、地元自治体と協力しながら二次救急輪番制の充実に努めてほしい。	◎1 ○6	＜評価に関する御意見＞ ■救急車の受入れを断らない方針などは、県の医療体制維持に大きく貢献した。（大毛副委員長） ■中山間地域の人口減少・高齢化先行地域で、入院患者数の減少は続いているが、コロナ禍が続く中でも、手術件数や内視鏡検査件数は回復してきている。重点指標である専門外来も、アピールに努めたことで増加した。（木倉委員） ■専門外来は病院の強みであり、適切にアピールすることで患者数を増やしたのは評価できる。新型コロナ対応と並行しながら救急車の受入れにも努力している。（高橋委員） ■目標値には届かない部分も認められるが、新型コロナの波の影響を受けながらも、医師会からの信頼に応え、安芸津病院の機能を維持したことを高く評価した。（谷田委員長） ■救急搬送受入数は目標達成のうえ、前年比100件増であることを評価した。また、手術及び内視鏡検査は目標未達だが、いずれも前年度を超えている。（平谷委員） ■救急車の受入れが大幅に増えている。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■高齢化が進む安芸津町で唯一の入院機能を持つ中核病院として、住民の年齢層に応じた医療機能の維持に努めて、県全体の地域包括ケアのモデルとして、ノウハウを広めてほしい。二次救急の輪番制の充実については、地元自治体との協力体制を図りながら努力を続けてほしい。（木倉委員） ■新型コロナの波の影響について、患者数の変動などわかりやすく表現していただきたい。（谷田委員長） ■化学療法の実施件数を増やすことができないか。（和田委員）
Ⅰ 医療提供体制の強化	○予防医療の推進 ○在宅療養支援の充実	訪問看護新規者数は目標を下回ったが、健（検）診件数は目標を達成し、地域包括ケア病床からの在宅復帰率も新型コロナの影響を除けば目標を上回った。	○	○	健（検）診受診件数はコロナ禍でも維持されたが、在宅療養支援では訪問看護件数以外の指標が未達となった。 退院前後の在宅訪問は患者にとって有用な支援であるが、在宅医療の情報が家族まで伝わっていないことも考えられるため、地域住民に広く伝わるよう啓発を強化してほしい。	○7	＜評価に関する御意見＞ ■予防については、健診受診件数はコロナ禍でも維持されている。重点目標の地域包括ケア病床の在宅復帰率は、新型コロナ患者を受入れた影響はあったが、高く維持されている。重点目標の訪問看護新規者数は低下し、訪問看護の契約者数及び実施数が前年をやや下回った。（木倉委員） ■在宅療養支援は、介護事業との連携に力を入れていると理解しているものの、地域医療を担う病院として高みを目指してほしい。また、重点指標の目標に及ばなかったことで「○」にした。訪問看護と看取りの減少は、家族の介護力低下が大きな要因との説明を受け納得した。一方、在宅医療の情報が、介護事業所や地域団体で止まり、家族まで伝わっていないことも考えられる。ホームページも更新されたので、地域住民に広く伝わる工夫を引き続きお願いしたい。施設に限りがあり、消極的なケースを含めて在宅ニーズは一層高まる分野だと考える。（高橋委員） ■在宅医療に関し、訪問看護件数は目標を達成したが、その他の指標が未達である。（平谷委員） ■退院前後の在宅訪問は患者にとって有用な支援である。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■高齢化が進行し、単独世帯の多い地域における地域包括ケアのモデルなので、訪問看護は中核のサポートである。退院前・退院後の住民への訪問看護の啓発を強化し、地域生活を支えることで安心を維持してほしい。（木倉委員） ■患者のケアをする医療・介護従事者に対し、病院と同じレベルの情報を持ってもらうことで、外来の治療効果が向上する。このため、患者へのカルテ提供について検討していただきたい。（谷田委員長）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化								
	Ⅱ 医療の安全と質の向上	○医療安全の確保	転倒・転落発生率（レベル2以上）の件数は減少したが、延べ患者が減少したことから、目標数は未達であった。	△	○	転倒・転落発生率が減少しており、医療安全に関する職員の意識は高く保たれていると評価した。 一方、認知症ケア加算算定件数については、人員配置のマネジメントに課題がある。 また、医療安全・感染対策研修会は年3回にとどまっているため、介護施設も含めて開催できるよう努めてほしい。	○6 △1	＜評価に関する御意見＞ ■転倒・転落の件数は変わらないが、レベル2以上はやや減少した。一方、医療安全・感染対策研修会の開催は年3回に留まっている。（木倉委員） ■医療安全に関する職員の意識は高く保たれているものと評価した。（谷田委員長） ■転倒・転落件数が減少し、発生率も非常に低い。認知症ケア加算算定件数に課題があるため、この点は△相当とした。（平谷委員） ■転倒・転落発生率の減少を評価した。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■高齢者の多い地域のモデル病院として、転倒・転落予防の体制は、確実に定着するよう活動を継続してほしい。介護施設も含め、地域で研修会を開催するよう引き続き努力してほしい。（木倉委員） ■認知症ケア加算の件は、配置のマネジメントに課題が見える。（高橋委員） ■職員一人の産休で認知症ケア加算の算定件数実績が0になる課題は、病院事業全体で共有できないか。広島病院からの応援対応等は難しいのか。（平谷委員） ■認定看護師の不在は、広島病院との協力で防げなかったのか。（和田委員）
	Ⅱ 医療の安全と質の向上	○医療の質の向上	認知症ケアチームによる専門的カンファレンスの実施や院内ラウンドを前年より多くの件数を実施することができた。	○	○	各委員会・チームの活動が組織的になされていることを評価した。 多職種チームの活動は医療の質の向上、退院後の生活支援に資するものであるため、活動ノウハウが途絶えないよう継続するとともに、患者等に適切な情報を周知し、地域医療の柱としての存在を高めてほしい。 また、広島病院と同様に、チーム医療を評価する目標値を設定してほしい。	○7	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍にあっても、多職種によるチーム医療の各種委員会・チームの活動は継続されている。特に、糖尿病教室運営委員会や認知症ケアチームは活発に活動している。（木倉委員） ■患者目線では、治療の質が上がるチーム医療は重要で、介護との境を埋める役割もあるのではないか。引き続き、ニーズのある患者・場所に適切な情報を周知し、地域医療の柱としての存在をより高めてほしい。（高橋委員） ■チーム活動が組織的になされている点を高く評価した。（谷田委員長） ■目標未達もみられるが、各委員会・チームが、地道な活動をしているように読めた。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■褥瘡、栄養、糖尿病及び認知症などの多職種チームの活動は、入院中の医療の質の向上とともに、退院後の生活支援に役立つものであり、特に高齢化が進み、単独世帯の多い地域では大変重要なものである。活動ノウハウが途絶えないよう、継続的に努力してほしい。（木倉委員） ■診療報酬における施設基準を満たしてほしい。（谷田委員長） ■広島病院と同様に、チーム医療を評価する目標値を設定してほしい。（和田委員）
	Ⅲ 危機管理対応力の強化	○新型コロナウイルス感染症への対応	感染症外来、入院患者の受入、新型コロナワクチン接種への協力など、医療職を中心に病院全体で対応を行い、県立病院としての役割を担うことができた。	◎	◎	感染症重点医療機関として発熱外来を積極的に受入れ、予防・検査・手当のいずれにおいても地域の中心となり、公立病院としての役割を果たしたことを評価した。	◎7	＜評価に関する御意見＞ ■新型コロナ対応については、地域の発熱外来、院内検査及び入院病床確保など、県立病院としての役割を果たした。地域の感染症研修会にも積極的に貢献した。（木倉委員） ■引き続き発熱外来を積極的に受けた対応は、高い評価が妥当だ。（高橋委員） ■感染症重点医療機関として、予防・検査・手当のいずれにおいても地域の中心的な役割を果たしたものと高く評価した。（谷田委員長） ■適切に研修を受け、入院・外来患者の受入れなどを積極的に行っている。（平谷委員） ■発熱外来患者の対応増など、公立病院としての役割を十分果たしている。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■今回の新型感染症対策における危機管理の経験を検証し、新型感染症対策と一般医療を両立できるよう、今後に生かしてほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（1）医療機能の強化								
	Ⅲ 危機管理対応力の強化	○災害対策の強化	災害時に備え、具体的な対応の確認や訓練、アンケートを実施するなどにより、職員の意識を醸成することができ、災害時の対応力の向上を図ることができた。	○	○	防災対策としての準備・訓練は実施されているが、有事の際に活動ができない職員やBCPを知らない職員の比率が高い。全職員の災害対策意識の把握がなされ、現状と課題の整理ができたと考えられるため、次のステップに移行することを期待する。	○6 △1	＜評価に関する御意見＞ ■防災対策としての準備や訓練は実施されているが、職員アンケートでは、有事の際に初動及び活動ができない職員や、BCPを知らないと回答した職員が多い。（木倉委員） ■全職員の災害対策意識の把握がなされ、次のステップに移行するものと期待できる。（谷田委員長） ＜運営改善に関する御意見＞ ■専門部会で、耐震化対応の進捗について適時に説明してほしい。毎年の天候異変は激しくなっており、耐震化対応を進める間においても、特に地下浸水対策などの災害対策に万全を期してほしい。（木倉委員） ■平成30年に実際に浸水した事実を踏まえると、職員アンケートで「有事の際に初動や活動ができる」、「BCPを知っているか」で、ない・できないの比率が多い結果に驚いた。災害は確実に増えており、特に公的な病院では経営主導で危機管理体制を築いてもらいたい。（高橋委員） ■アンケートによって、現状と課題（活動すべきこと）の整理ができたと考えられる。ポスト新型コロナの中で、次年度の取組に生かしていただきたい。また、その方針が可能なら伺いたい。（平谷委員） ■防災訓練の参加比率は100%を目指すこと。（和田委員）
	Ⅳ 地域連携の強化	○地域医療連携	介護施設等のケアマネージャーとの会議へ可能な限り参加し、また、年3回以上面会した施設が27施設で前年を3施設上回るなど、連携を強化することができた。	○	○	新型コロナの影響がある中、地域医療機関等への訪問を継続し、可能な限り地域連携を維持したことがうかがえる。また、来院制限はあったものの、必要に応じてカンファレンスは行われ、機能維持は図られている。 しかし、いずれの指標も目標未達のため、令和5年度の改善に期待する。	◎1 ○5 △1	＜評価に関する御意見＞ ■人口減少と高齢化の先行地域における県立病院として、コロナ禍にあっても、ケアマネジャーとの情報共有を工夫し、地域医療機関や介護施設への訪問を継続することで、地域包括ケアの役割継続に努めた。（木倉委員） ■コロナ禍で、可能な限り介護との地域連携を維持したことがうかがえる。（高橋委員） ■感染拡大による来院制限はあったものの、必要に応じてカンファレンスは行われており、機能維持は図られた。（谷田委員長） ■いずれの指標も、目標未達となっている。ポスト新型コロナの令和5年度は改善されるものと期待する。（平谷委員） ■地域医療機関等への訪問が18病院となったことを評価します。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■高齢単独世帯や認知症が増加する難しい地域であるが、自治体や介護施設と協力して、地域包括ケアのモデル地域としてさらに努力してほしい。（木倉委員）
（2）人材育成機能の維持								
	Ⅴ 医師の育成・確保	○医師の確保・育成	初期臨床研修医と地域医療研修を受入れ、地域医療を学ばせることができた。	○	○	指標は目標未達だが、おおむね数字は達成できた。広島病院からの支援を得て、更に総合診療医の確保育成に努めてほしい。	○7	＜評価に関する御意見＞ ■高齢化先行地域での地域包括ケアのモデル病院として、コロナ禍にあっても総合診療医を目指す初期臨床研修医の研修受入などに努力している。（木倉委員） ■Ⅶに記載（谷田委員長） ■指標は目標未達であるが、研修等の各取組は進められている。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■高齢者が多い地域包括ケアのモデル地域である特性を活かして、広島病院からの支援を得て、さらに総合診療医の確保育成に努力してほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（2）人材育成機能の維持								
	Ⅵ 看護師等の育成・確保	○看護師等の育成・確保	看護協会等の研修などに積極的に参加させるとともに、看護学生や救急救命士等の実習受入を少数だが再開し、院内・院外の医療人材の育成に努めることができた。	○	○	コロナ禍でも看護学生や他職種の研修受入を再開した。 看護師による外来時や退院時の個別指導、訪問看護による在宅支援などのノウハウが途切れないよう、研修や実地指導の継続に努め、退職に備えて複数人の認定資格取得者を確保してほしい。	◎1 ○5 △1	＜評価に関する御意見＞ ■看護学生や救急救命士等の実習受入は再開した。院内の看護職員の研修も進めている。（木倉委員） ■コロナ禍でも看護学生や他職種の研修受入を再開している。（高橋委員） ■Ⅶに記載（谷田委員長） ■指標は目標未達であったが、研修、実習受入等の各取組が進められている。（平谷委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■地域包括ケアのモデル病院として培ってきた看護師による外来時や退院時の個別指導、訪問看護による在宅支援などのノウハウが途切れないよう、研修や実地指導の継続に努めてほしい。（木倉委員） ■退職に備えて複数人の認定資格取得者を確保すること。（和田委員）
	Ⅶ 県内医療水準向上への貢献	○地域医療従事者等への研修 ○医療人材の派遣	新型コロナに係るクラスター等の発生対応のために感染管理認定看護師を派遣するなどにより、地域に貢献することができた。	○	○	目標は未達だが、新型コロナ患者受入により蓄積した知見と経験を生かす活動、研修受入、院内での研鑽及び地域への講師派遣など、県立病院の使命に沿った活動を評価した。	◎2 ○5	＜評価に関する御意見＞ ■地域開放型研修会への講師派遣など、地域貢献活動を再開している。（木倉委員） ■高齢者の関わる施設にとって、感染症医療のサポートは非常に重要で、心強いはずだ。新型コロナ患者の受入れで蓄積した知見と経験を生かす活動を評価したい。（高橋委員） ■臨床研修受入、実習受入、院内での研鑽や研究、さらには地域への講師派遣など、県立病院の使命に沿った活動がなされているものと高く評価した。（谷田委員長） ■指標は目標未達であるが、研修や派遣等の各取組が進められている。（平谷委員） ■医療人材の派遣を積極的に進めている。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■医療資源の少ない地域の県立病院として、引き続き、専門的ノウハウを地域に伝えて地域包括ケアの充実に貢献してほしい。（木倉委員）
（3）患者満足度の向上								
	Ⅷ 患者満足度の向上	○患者満足度の向上	患者アンケートの満足度は、特に施設・設備の老朽化に対する厳しい意見があるため目標には達していないが、看護師等の職員への満足度が高く、引き続き9割以上の水準で満足度を維持することができた。	○	○	新型コロナの影響で外来患者へのアンケートは中止したが、入院患者を対象としたアンケートは満足度が高く、評価できる。 施設・設備に対する厳しい意見があったため、施設の維持管理について、高齢者の安全性利便性に十分配慮してほしい。	○7	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍で外来患者アンケートは中止したが、入院患者アンケートの満足度は引き続き高く、その内容も毎月共有されている。（木倉委員） ■患者満足度は全員にアンケートをした上で、高水準を保っている。（高橋委員） ■受診患者の満足度が高い点を評価した。（谷田委員長） ■90%を超える満足度で、目標未達であるも、割合として悪くない。（平谷委員） ■満足度93%は少し低い。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■耐震化対応までの間であっても、施設の維持管理については、高齢者の安全性利便性には十分配慮してほしい。（木倉委員） ■医療機関が限られている地域であることから、アンケートは住民に拡大することを検討していただきたい。（谷田委員長） ■常時アンケートを評価する。（和田委員）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（3）患者満足度の向上								
	Ⅸ 業務改善	○TQMサークル活動 ○5S活動	5S活動を全部署で継続して取り組んでおり、 職員の中でも必要性について十分認識され、定着することができた。	○	○	TQM活動の再開を評価する。 TQMサークル活動のチームだけでなく、院内の各委員会・チームが患者満足度の視点をもって活動してほしい。	◎1 ○6	＜評価に関する御意見＞ ■5S活動は所属ごとに継続されている。TQM活動も再開してきている。（木倉委員） ■TQM活動の再開を評価する。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■5S活動及びTQM活動のノウハウが途絶えないよう、各部署で継続して共有してほしい。（木倉委員） ■TQMサークル活動のチームだけではなく、安芸津病院内にある各委員会・チームが患者満足度の視点をもって活動してほしい。また、それぞれの専門分野において政策事業と医療事業を区分整理することを考えてほしい。（谷田委員長）
	Ⅹ 広報の充実	○広報の充実	医療公開講座の開催や地域イベントへの参加等により広報活動を行った結果、地域の学生や地域の方と交流を深められ、安芸津病院の認知度を高めることができた。	○		ホームページの閲覧件数が飛躍的に伸びていることや地域イベントでの広報などから、PR活動は様々な場面で行われているものと評価した。	◎4 ○3	＜評価に関する御意見＞ ■年4回の広報誌「四季だより」は、病院のスタッフや機能の説明とともに、訪問看護の周知や日常的な健康情報などが毎回わかりやすく編集されている。（木倉委員） ■ホームページや地域イベントでの広報により、実際に外来患者などが増え、患者や住民の反応が良いという結果が得られている。（高橋委員） ■PR活動は、様々な場面で行われているものと評価した。（谷田委員長） ■ホームページの閲覧件数が飛躍的に伸びている。（平谷委員） ■地域イベントへの参加を評価する。広報活動も充実している。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■地域包括ケアの一環として、安芸津町内や大崎上島町などの住民に対する出前講座など、対面での効果の高い研修や講演会を再開して、住民自身の健康や身体の機能を守る意識を高める行動をサポートしてほしい。（木倉委員）
（4）経営基盤の強化								
	ⅩⅠ 経営力の強化	○情報処理技術の活用 ○病棟・病床運営の弾力的な運営	週1回の病床管理ミーティングの実施等、円滑な病床管理に取り組んだ結果、新型コロナ患者を受け入れた期間においても一般患者の入院との両立ができたが、病床稼働率は目標を下回った。	△	○	新型コロナ患者の積極的な受入れを優先したのであれば、新規入院患者数、病床稼働率ともに、目標を達成できなかったことは理解できる。 新型コロナ患者と一般入院患者の両立ができたのは、柔軟な人員配置と組織変更及び毎週の管理ミーティングによるものと推察した。	○5 △2	＜評価に関する御意見＞ ■コロナ禍にあっても、毎週の管理ミーティングで円滑な病床管理が行われ、一般入院患者との両立ができた。（木倉委員） ■新規入院患者数、病床稼働率ともに、新型コロナの積極受入を優先したのであれば、目標をクリアできなかったことは理解できる。（高橋委員） ■新型コロナ患者受入のために人員配置や組織変更などが柔軟に行われたものと推察した。（谷田委員長） ■病床管理は週一回で充分か。ベッド稼働率は毎日情報共有すべきではないか。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■地域包括ケア病床の機能を活かし、病床稼働率を回復させながら、在宅療養継続もサポートしてほしい。人口減少と高齢化の進行に応じて、これから具体化する耐震化対応においても、全体の病床規模、一般病床と地域包括ケア病床の規模を見直すとともに、今後とも弾力的な運用や見直しを続けて、地域住民の支援と健全経営を続けてほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（4）経営基盤の強化								
	ＸⅡ 増収対策	○医業収益の増加策 ○未収金対策	診療報酬改定に合わせて、各種加算の取得・維持に努めるとともに、新型コロナに係る救急医療管理算等で診療単価が増額したことにより、医業収益は前年度を上回ったが、地域包括ケア病床の稼働率は目標を下回った。	△	○	新型コロナ患者を受入れながら、地域包括ケア病床稼働率は前年度実績を上回り、入院単価も目標を上回った。 引き続き訪問看護の充実や介護サービスとの連携を考慮して、地域包括ケアを支えられるよう、経営改善を図ってほしい。	○6 △1	＜評価に関する御意見＞ ■地域包括ケア病床稼働率は前年度実績を上回り、入院単価も目標を大幅に上回った。（大毛副委員長） ■一般患者が減少したが、新型コロナ関連の診療報酬等で入院単価は大きく上昇し、医業収益は増加した。（木倉委員） ■目標数値は新型コロナ患者なしを前提にしたとの説明があった。新型コロナ患者を受入れながら、地域包括ケア病床稼働率、入院単価の実績は前年より増加している。（高橋委員） ■政策経費の補填が十分であったかどうかの検証が必要と考える。（谷田委員長） ■地域包括ケア病床の稼働率の向上、入院単価は目標達成等、努力の成果が一定程度認められる。（平谷委員） ■診療報酬加算の獲得努力と新型コロナ患者の診察を評価する。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■安芸津病院本来の姿として、地域包括ケア病床を活かした病院機能を復活させて患者を確保し、収益改善に努力してほしい。耐震化対応を進める中で、安芸津地域の人口構造の推移を展望し、中長期の視点から、病院の外来・入院機能だけでなく訪問看護の充実や介護サービスとの連携も考慮して、地域包括ケアを支える適切な規模と機能での経営改善を図ってほしい。（木倉委員）
	ＸⅢ 費用合理化対策	○適正な材料・備品の購入 ○経費の見直し	単価契約物品の整理や、一部内視鏡の診療材料の集約等による見直しを行い、経費削減に取り組んだことなどにより材料費比率は前年を下回ったが、経費の増加等により、顕著な成果には至っていない。	△	△	人件費や委託費など、削減の要否又は可否を精査すべき費用も多い中で、一定の節約は認められた。 今後は、地域に必要な診療機能や病床規模を見直しながら、スリムで効率的な経営に努めてほしい。	○2 △5	＜評価に関する御意見＞ ■材料費比率の削減に努力した。入院単価や外来単価は改善してきており、後発医薬品使用数量割合は90%と極めて高い。一方で、光熱費や人件費等の上昇で医業費用は増大した。地域の構造的問題だが、高齢化・人口減少で、外来患者・入院患者ともに減少傾向は続いている。（木倉委員） ■ＸⅡに記載。（谷田委員長） ■人件費や委託費など、削減の要否又は可否を精査すべき費用も多い中で、一定の経費節減は認められる。（平谷委員） ■材料比率の減少を評価した。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■将来の地域の姿を展望して耐震化対応を進める上で、現在から、地域に必要な診療機能や病床規模を見直しながら、スリムで効率的な経営に努めてほしい。（木倉委員） ■給食業者の変更により患者満足度に変更はあったのか。機器の保守契約の統一化など行っているか。（和田委員）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目			実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）	委員評価	委員意見
（5）目標指標								
	決算の状況		県の政策医療の担い手(新型コロナウイルス感染症重点医療機関）として、新型コロナへの対応を行った結果、一般の入院患者数が減少したものの貢献に応じた補助金を受け入れたが、給与費や燃料費高騰による経費等の費用増加により赤字となった。	○	○	新型コロナ関連の診療報酬や補助金による好影響があったが、光熱費や人件費等の上昇による悪影響もあった。 経常収支の悪化は医業外収益の減少と特別損失であり、経営努力は充分なされている。	○6 △1	＜評価に関する御意見＞ ■新型コロナ関連の診療報酬や補助金があったが、光熱費や人件費等の上昇で赤字となった。（木倉委員） ■ＸⅡに記載。（谷田委員長） ■様々なやむを得ない要因があると思うが、赤字で「○」の評価はできないと考えた。（平谷委員） ■経常収支の悪化は医業外収益の減少と特別損失であり、経営努力は充分なされている。（和田委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■人口減少と高齢化で、今後も医業収支の大きな改善は困難である。地域包括ケアのモデルの在り方としては、人口規模に応じて病床規模や診療機能を見直しながら、在宅介護事業者や介護施設との連携も進め、地域完結型の総合的な医療介護サービスで地域生活を支えてほしい。（木倉委員） ■特別損失は前年度より大幅増で、帳簿上は想定外であり、何らかの説明を記載した方が良いのではないか。（高橋委員）
	目標指標の達成状況		新型コロナの影響等により、31項目のうち達成は12項目、未達成は19項目となった。	－	－	専門外来患者数、健（検）診件数及び訪問看護実施数などの目標を達成し、地域生活を支える病院機能は良く発揮されている。耐震化対応を進める上で、経営の維持を図ってほしい。	－	＜評価に関する御意見＞ ■未達成項目が令和元年度は6項目、令和2年度は13項目、令和3年度は16項目、令和4年度は19項目となった。（木倉委員） ＜運営改善に関する御意見＞ ■骨粗しょう症や人口関節置換後のアフターケアといった専門外来患者数、健診件数及び訪問看護実施数などは目標を達成した。これらの項目からみて、地域生活を支える病院機能は良く発揮されている。耐震化対応を進める上では、患者数や年齢層の変化を見通して、在宅生活を支えるための診療機能や病床数を検討して経営の維持を図ってほしい。（木倉委員）

【令和4年度　評価表（安芸津病院）】

取組方針／取組項目	実績総括	自己評価	委員会評価案	委員会意見（とりまとめ案）
総合評価			○	新型コロナの影響で苦境にある中、地域包括ケアのモデル病院として在宅支援機能を発揮するなど、広島県の医療体制維持に大きな貢献を果たした。 今後も、新型コロナ対応と平時対応のバランスがとれた運営を行ってほしい。

委員評価	委員意見
○7	＜評価に関する御意見＞ ■新型コロナで苦しい中、県立病院として広島県の医療体制維持に大きな貢献を果たした。（大毛副委員長） ■高齢化・人口減少が続く中で、新型コロナ感染症の影響があり、入院患者数、延外来患者数ともに減少している。一方で、健（検）診件数や訪問看護実施件数はほぼ維持されており、地域包括ケアのモデル病院として在宅支援機能は発揮されている。また、専門外来受診患者数も伸びており、強みを活かす工夫がなされている。光熱水費や人件費の上昇で赤字となったが、材料費等の医業費用は抑制されている。中山間地の高齢化先行地域で、地域包括ケアの拠点として、在宅復帰、在宅支援の目標意識を明確にして努力している。（木倉委員） ■組織全体としての事業活動がなされていることが確認できた。（谷田委員長） ＜運営改善に関する御意見＞ ■安芸津病院は、地域包括ケア病床を活用し、在宅支援にも努めることで、高齢者の地域生活の継続を良く支援している。しかし、県立病院だからといっても、地域全体で不足している医療介護サービスの全てには対応できない。地域包括ケアを総合的に計画し推進すべき主体は、地元自治体である。単身高齢者が増える中では、高齢者住宅、介護施設、福祉の訪問通所サービス等の受け皿も総合的に整備する必要がある。令和6年度からは医療計画と介護保険事業（支援）計画の新たな期間が始まる。県立病院の経営計画においても、安芸津病院に求める機能と、地元自治体で整備していく機能との役割分担を明確にし、その全体像の中で、安芸津病院が強みとする分野に人員と機能を集中していくべきである。今後、耐震化対応を進めていく上で、行政とよく連携して、地域の医療介護資源の全体像の中で、安芸津病院の機能が適切に位置づけられ、経営が持続できることを望む。（木倉委員） ■コロナ禍の流行状況をにらみながら、新型コロナ対応と平時対応のバランスを見極めた運営をより一層求めたい。（高橋委員） ■ＸⅡに記載。（谷田委員長）